

平成23年度  
横浜市立高等学校  
第三者評価書

横浜市立高等学校評価委員会

## はじめに

横浜市立高等学校は、学校ごとに中期学校経営方針を策定し、市民から信頼が得られ、期待に応えることができるよう、教育の質の向上や特色ある高校づくりに取り組んでいます。

教育の質の向上や特色ある高校づくりを進めていくうえでは、自己評価を中心とする学校評価が大変重要となります。この学校評価をより有効に実施するためには、自己評価を柱とする P-D-C-A (Plan-Do-Check-Action) マネジメント・サイクルを確立するとともに、各高校の自己評価と自己改善を高めることができるよう、学校関係者評価及び第三者評価を組み合わせて行うことが必要となります。

特に、学校に直接かかわりをもたない専門家等が、教育活動その他の学校運営について、専門的、客観的立場から評価を行うことで、学校の自己評価の精度を高めることが期待できます。

高校は義務教育とは異なり、生徒や保護者から選択される学校とならなければなりません。この第三者による客観的評価は、生徒や保護者から選択されるための信頼を確保する1つの指標になるものと考えます。

「第三者評価を活用した学校評価」の手法として、各学校から提出された自己評価書や学校関係者評価書等についての書類調査と、直接に学校を訪問し、授業参観や管理職等からのヒアリング、施設・設備見学や生徒との対話等の訪問調査を実施しました。

この第三者評価書は、その結果を基にした評価を取りまとめ、作成しています。

横浜市立高等学校評価委員会での評価結果を基に、各市立高等学校の教育活動その他の学校運営が効果的に改善され、さらに、横浜市立高等学校全体が魅力と特色ある高校となることを期待しています。

平成23年9月

横浜市立高等学校評価委員会

委員長 玉川大学教職大学院教授 小松 郁夫

# 目 次

## I 平成23年度第三者評価

1 横浜市立高等学校評価の体系図	1
2 横浜市立高等学校評価委員会委員構成	1
3 書類調査・訪問調査担当校一覧	2
4 訪問調査校の評価について	3

## II 調査結果

### 1 訪問調査校

(1) 金沢高等学校	5
(2) 戸塚高等学校定時制	9
(3) 横浜商業高等学校別科	13

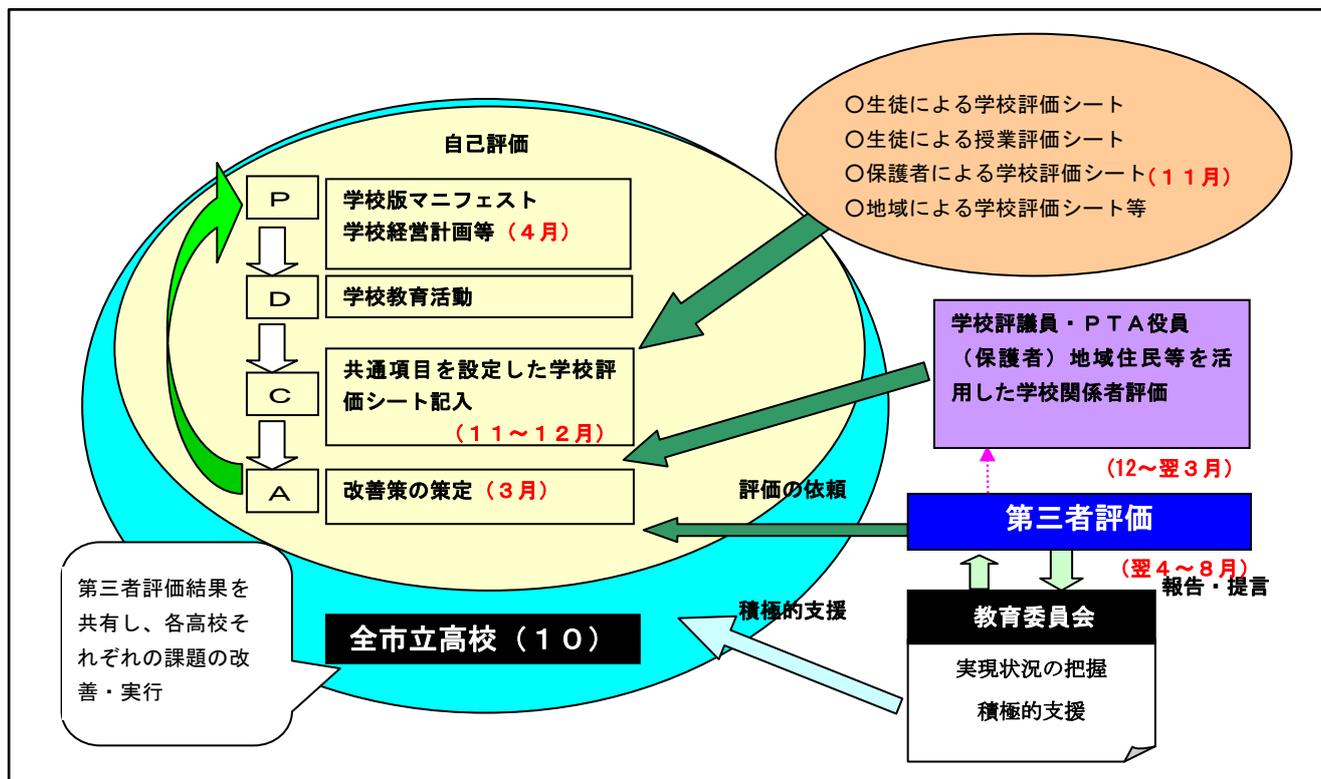
### 2 書類調査校

(1) 南高等学校	17
(2) 横浜商業高等学校	18
(3) 横浜総合高等学校	19
(4) みなと総合高等学校	20
(5) 桜丘高等学校	21
(6) 鶴見工業高等学校	22
(7) 戸塚高等学校	23
(8) 東高等学校	24
(9) 横浜サイエンスフロンティア高等学校	25

(参考) 平成23年度 横浜市立高等学校 各校の重点取組項目一覧	26
----------------------------------	----

# I 平成23年度第三者評価

## 1 横浜市立高等学校評価の体系図



## 2 横浜市立高等学校評価委員会 委員構成 (委員は50音順)

	氏名	所属等
委員長	小松 郁夫	玉川大学教職大学院 教授
副委員長	千賀 重義	横浜市立大学 名誉教授
副委員長	上野 淳	首都大学東京 副学長
委員	大澤 寛	横浜市東戸塚地区センター 館長
	大野 浩一	横浜青年会議所 政策顧問
	落合 優	横浜国立大学教育人間科学部 教授
	高瀬 茂	横浜市立中学校長会(横浜市立山内中学校長)
	長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会 会長
	西村宗一郎	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校長

### 3 書類調査・訪問調査担当校一覧（委員は50音順）

#### ◇ 書類調査

- 1班 【調査日】 平成23年5月30日（月）  
 【書類調査校】 横浜市立南高等学校、横浜市立横浜商業高等学校  
 横浜市立横浜総合高等学校

委員長	小松 郁夫	玉川大学教職大学院教授
委員	高瀬 茂	横浜市立中学校長会(横浜市立山内中学校長)
	長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会 会長

- 2班 【調査日】 平成23年5月30日（月）  
 【書類調査校】 横浜市立みなと総合高等学校、横浜市立桜丘高等学校  
 横浜市立鶴見工業高等学校

副委員長	千賀 重義	横浜市立大学名誉教授
委員	大野 浩一	横浜青年会議所 政策顧問
	西村宗一郎	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校長

- 3班 【調査日】 平成23年5月30日（月）  
 【書類調査校】 横浜市立戸塚高等学校、横浜市立東高等学校  
 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

副委員長	上野 淳	首都大学東京 副学長
委員	大澤 寛	横浜市東戸塚地区センター 館長
	落合 優	横浜国立大学教育人間科学部教授

#### ◇ 訪問調査

- 1班 【調査日】 平成23年6月22日（水）  
 【訪問調査校】 横浜市立金沢高等学校

副委員長	上野 淳	首都大学東京 副学長
委員	落合 優	横浜国立大学教育人間科学部教授
	西村宗一郎	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校長

- 2班 【調査日】 平成23年6月27日（月）  
 【訪問調査校】 横浜市立戸塚高等学校定時制

副委員長	千賀 重義	横浜市立大学名誉教授
委員	大澤 寛	横浜市東戸塚地区センター 館長
	大野 浩一	横浜青年会議所 政策顧問

- 3班 【調査日】 平成23年7月7日（木）  
 【訪問調査校】 横浜市立横浜商業高等学校別科

委員長	小松 郁夫	玉川大学教職大学院教授
委員	高瀬 茂	横浜市立中学校長会(横浜市立山内中学校長)
	長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会 会長

## 4 訪問調査校の評価について

- ◆ 訪問調査校の評価は、学校から提出された「自己評価書」及び「学校関係者評価書」における各学校が実施した学校評価の結果を参考として、訪問調査での調査結果を分析・総合して、「小項目」単位で次のとおり評価しています。学校の総合評価については、全体を総合的に判断して、次のとおり評価しています。

### ◇評価「優れている」（優れている状況にある）

優れた取組や状況等が見られ、課題は少ないか、又は改善に向けた取組が効果的に成果を上げている様子が見られる状況。

### ◇評価「良い」（良い状況にある）

良い取組や状況等が見られ、課題は多少あるが、改善に向けた取組が成果を上げつつある様子が見られる状況。

### ◇評価「おおむね満足」（課題はあるがおおむね満足できる状況にある）

課題はあるが、改善に向けた取組が見られる等深刻な状況はみられず、通常求められる学校運営がおおむねなされている様子が見られる状況。

### ◇評価「要改善」（課題が多く速やかな改善が必要な状況にある）

課題がとても多いか、又は深刻な状況にあり、直ちに改善を図らなければならない様子が明らかに見られるが、改善に向けた取組に着手できていないか、又はほとんど成果を上げていない様子が見られる状況。

### ◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

## II 調査結果

# 1 訪問調査校

## (1) 金沢高等学校(訪問調査日:平成23年6月22日)

訪問担当者:上野 淳 副委員長、落合 優 委員、西村 宗一郎 委員

### 金沢高等学校の概要

創 立:昭和26年4月

住 所:横浜市金沢区瀬戸22-1

学 校 長:西村 英純

課 程 等:全日制の課程 普通科

クラス数:21クラス

生徒数:828人(男子377人、女子451人)平成23年5月1日現在

## ◆大項目1 教育活動の状況

### 小項目1 各教科等の状況

#### ◇評 価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講 評

##### ■教育課程の状況(平成23年度重点取組項目)

- これまでの単位制、2学期制から、平成22年度入学生より学年制、3学期制に改め、文理特進コースを2クラス新設するなど大幅な変更を行った。文理特進コースでは、英語・数学・国語を重点化した特色ある教育課程とし、英語・数学では少人数授業を展開している。また、隣接する横浜市立大学との高大連携特別講座も実施している。

現在は、単位制の教育課程と学年制の教育課程を同時に展開しているが、それぞれの特色を生かした授業展開を図っている。教育課程にかかわる生徒の肯定的評価の割合は高いとみることができるが、教職員の肯定的評価の割合は前年度に比較してやや低くなっている。これは、2つの教育課程の同時進行、新たな教育課程運営にかかわる調整の問題等が反映しているものと考えられる。今後、多様な進路希望に応じた2年生、3年生に向けての教育課程の編成、文理特進コースと一般コースでの選択科目の共有化等の取組に期待する。

##### □教科指導の状況

- 学力向上のための研究指定校として、各種のテストを有効に利用しての学習効果の適切な測定法の研究や、成績診断システムを導入しての面談への各種情報の活用方法を研究しており、今後の成果に期待する。
- 「評価規準や指導方法について、生徒や保護者への説明を分かりやすく行っている」について、教職員の肯定的評価の割合は76%である。「学校は、評価規準や指導方法について十分説明していますか」について、保護者の肯定的評価の割合は73%である。評価規準、評価方法については、より一層教職員の意識を高めるとともに、生徒・保護者への周知を図ることが大切である。

- 授業評価における学習意欲については、肯定的評価の割合が56%となっているが、特に1年生及び2年次生で低くなっている。また、多くの項目で1年生及び3年次生が高く、2年次生が低くなっている。この原因はその学年（年次）固有のものなのか、あるいは、単位制最後の年次である2年次生、学年制最初の学年である1年生等の要因が影響しているものなのかを明らかにすることが望まれる。
- 家庭学習の習慣については、より一層の定着を図る必要がある。

#### □特別活動・部活動の状況

- 主体的、自立的な生徒会活動、自発的、主体的な部活動の展開に向けた取組が行われている。生徒会活動や部活動に関する教職員の肯定的評価の割合は高いものとなっている。学校行事の実施時期や家庭への情報発信に関しての生徒の肯定的評価の割合は低い。また、保護者からもわからないという回答が多い。この点については、学校行事の公開化等により一層の改善を図ることが課題として認識されている。今後の改善に期待する。
- 特別活動・部活動に充当できる時間の問題では、文理特進コースの設置等により授業時数が増加したことで、すべての学年（年次）共有の放課後時間が減少しており、特別活動・部活動のための時間の確保や効果的な運営が課題となっている。

### 小項目2 生徒の状況

#### ◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講評

##### ■生徒指導・教育相談の状況（平成23年度重点取組項目）

- 生徒サポート委員会の定例化による情報共有の促進や、教職員研修等による面談の質の向上を図り、個人面談週間、進路相談等の生徒対応を行って成果を上げている。こうした取組は、教職員、生徒、保護者ともに高く評価している。基本的な生活習慣の向上に向けての取組も登下校指導等を通して実践している。取組の成果が期待される。

#### □進路指導の状況

- 生徒の主体的な志望をもとに、3年間を見通した進路指導を行っている。スタディーサポートや実力テスト、模擬テスト等の結果を活用した個別面談を実施し、分析データに基づく指導を定着させてきている。また、進路ガイダンス、横浜市立大学との連携講座、卒業生との懇談会等も利用し、進路ノートの作成も行っている。データに基づく進路相談に関しては分析研修会を教職員全体で行っている。こうした進路指導にかかわる取組は、教職員、生徒、保護者ともに高く評価している。より一層の充実を期待する。

#### □保健指導及び環境美化の状況

- 保健指導については、生徒支援部保健担当を中心とした健康管理・健康相談、2名の養護教諭による個別対応等に取り組んでいる。また、生徒のケガや体調不良の際の保護者への連絡にも配慮がなされている。これらについての生徒、保護者の肯定的評価の割合が高くなってきていることは評価できる。

◆大項目 2 学校経営の状況  
 小項目 1 管理運営等の状況

◇評 価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講 評

■教育目標の設定・実施状況（平成23年度重点取組項目）

- 教育目標に基づき、高い学力と幅広い教養の育成、希望する進路の実現、横浜市立大学との高大連携事業の充実、社会貢献活動の推進を取組目標として掲げている。目標の設定や実施状況に関する教職員の肯定的評価の割合は高く、生徒、保護者の肯定的評価の割合も向上している。生徒、保護者の評価では、1年生とその保護者の肯定的評価の割合が高く、文理特進コースの設置や教育課程の改編に伴い、学校の教育目標が具体化され明確になるとともに、生徒、保護者への説明が十分に行われたことの反映と見ることができる。

□組織運営及び教職員研修の状況

- 組織運営に関しては、学校経営、各分掌、各種委員会等の組織で校務運営を行っている。組織運営に関する教職員の肯定的評価の割合は、前年度より低くなっている。これには、学年制への移行や文理特進コースの設置、生徒指導、図書視聴覚、保健美化を生徒支援部へ統合するなどの改編に伴う業務の分担や調整が十分に確立できなかったことが反映していると考えられる。しかしながら、生徒支援部の設置やサポート委員会の定例化は、生徒指導に効果を上げており、この点に関する教職員の肯定的評価の割合が大幅に高まっている。教職員研修に関しては、スタディーサポートなど進路指導に関する研修会の実施、各教科での校内授業公開等を進めており、進路指導についての成果が見られる。教育課程の改編の1年目であることから、組織運営や組織的な授業研究も含めた研修体制についても、これからの生徒や学校の状況に応じてさらに推進していくことが期待される。

□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

- 学校経理に関しては、公金・準公金について、「横浜市立学校準公金事務取扱マニュアル」等に基づいて適正に行われており、執行計画と決算報告がホームページ上で公開されている。学校経理にかかわる教職員、保護者の肯定的評価の割合はともに高くなっている。今後も適正に処理されることを望む。
- 教室の有効利用を図るため、教室使用予約状況が容易に把握できるよう工夫をしている。施設・設備の維持管理や有効利用についての教職員の肯定的評価の割合は高い。また、エアコン導入が反映しているとみられるが、学習環境にかかわる保護者の肯定的評価の割合も向上してきている。今後も生徒の学習環境の整備に努めてほしい。
- 教室、特別教室、体育施設等の施設・設備の老朽化が、教育活動に影響している。教育委員会の支援が望まれる。
- 個人情報の取り扱いについては、「学校における個人情報の取り扱いについて」を遵守して行われている。また、校内での写真撮影については「記録写真の取り扱いについて」の文書を保護者に配布して確認している。個人情報にかかわる教職員、保護者の肯定的評価の割合が高いことは評価できる。

## 小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況

### ◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

### ◇講評

#### □保護者・地域等との連携協力の状況

- P T A活動は活発に行われており、教職員、保護者の肯定的評価の割合は高い。保護者との連携については、教職員の肯定的評価の割合は高く、保護者の肯定的評価の割合も向上してきているが、生徒の肯定的評価の割合は低くなっている。地域との連携や社会貢献活動についての教職員の肯定的評価の割合は低く、地域や近隣小中学校との一層の連携協力が課題である。

#### ■危機管理の状況（平成23年度重点取組項目）

- 避難経路については年度当初に説明を行い、防災訓練では帰宅方面別、学校待機別に点呼を行っている。警報発令時の対応については、年度当初に文書を配布し、生徒手帳にも記載している。また、ホームページに掲載して早期の情報発信に努めている。この点についての肯定的評価の割合は教職員では高く、生徒では向上を見せているが、保護者では低くなっている。保護者への周知が課題と考えられる。
- 東日本大震災の経験から、避難経路のみならず、学校待機を含む下校経路の確認、備蓄物資の調達、保護者への情報手段等について、検討の必要性が認識されており、今後の取組に期待する。

#### □学校に関する情報公開の状況

- 学校説明会、学校を開く週間、体験授業、学校見学、ホームページでの情報発信など学校に関する情報公開を行っている。これらの取組に対する保護者の肯定的評価の割合は、平成21年度の59%から平成22年度は74%に増加している。より一層の情報公開に期待する。

## ◆学校の総合評価

### ◇総合評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

### ◇講評

- 単位制から学年制、文理特進コースの設置という大幅な教育課程の改編が行われ、少人数授業、高大連携など注目に値する内容が含まれており、これらが十分な効果をあげることが期待される。また、文理特進コースと一般コース双方の特色を生かしながら、可能な部分では融合的な運営を行うこともメリットと考えられる。学校説明会、体験授業、学校見学会などにおける文理特進コースを含めた学校情報の発信は、今後の学校の教育に大きな影響を与えるものと判断されるので、一層の努力を期待する。
- 生徒の興味・関心、進路希望に応じた進路指導や、一人ひとりの生徒にきめ細かく対応可能な生徒指導・相談体制は評価に値するものである。

## (2) 戸塚高等学校定時制(訪問調査日:平成23年6月27日)

訪問担当者:千賀 重義 副委員長、大澤 寛 委員、大野 浩一 委員

### 戸塚高等学校定時制の概要

創 立:昭和23年4月

住 所:横浜市戸塚区汲沢 2-27-1

校長代理:金山 康男

課 程 等:定時制の課程 普通科

クラス数:16クラス

生 徒 数:391人(男子235人、女子156人)平成23年5月1日現在

## ◆大項目1 教育活動の状況

### 小項目1 各教科等の状況

#### ◇評 価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講 評

##### ■教育課程の状況(平成23年度重点取組項目)

- 「生きる力」の育成を柱として、学校教育目標の具現化に取り組んでいる。  
1・2年生は、生徒指導に重点を置くとともに、教育課程においては基礎・基本の科目を設置している。3・4年生は、学習指導に重点を置き、進路や適性に応じて学ぶことができる選択科目を中心に設置している。また、選択科目の各群に必ず1科目は実技・実習を伴う科目を設置するなど、生徒の実態に対応した教育課程の充実が目指されていることは評価できる。

##### □教科指導の状況

- 「家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか」について、生徒の肯定的評価の割合は約57.3%となっている。適宜行われるテストが生徒の家庭学習習慣の肯定的評価の割合につながっていることとはいえ、生徒の学習意欲は感じられる。
- 基礎学力が十分とはいえない生徒が多いため、授業の理解度に差が出ているという。中学校までの学習内容を踏まえて、生徒の理解度を高める工夫を図ってほしい。また、今後一層の充実が望まれるのは、生徒参加型の授業を増やすことである。
- 教職員が校内を巡回して、授業を受けないでいる生徒を授業に出席させる指導が行われており、生徒からもこの取組は支持されている。

##### □特別活動・部活動の状況

- 部活動への加入率が53%なのは、定時制高校であることを考慮すると、割合としては低いと考えられる。近隣住民への影響を考慮してのことではあるが、音楽系サークルの練習環境が恵まれていないようなので改善を検討してほしい。部活動の加入率も、活動する時間や場所の制約のある中で53%を維持し、学校生活の励みになっている。ただし、限られた教職員集団での指導に

限界も見られるので、何らかの対応も必要である。

- 生徒会活動における演劇祭は長い歴史があり、全校をあげて取り組む中で、自分を出すことが不得手であった生徒の自己表現力を育成することに役立っている。生徒たちの潜在能力が発揮され、生徒間での信頼関係を築くなど大きな成果を上げている。より一層の充実に期待する。

## 小項目2 生徒の状況

### ◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

### ◇講評

#### ■生徒指導・教育相談の状況（平成23年度重点取組項目）

- 教職員が校門付近で登校する生徒にあいさつや声かけをし、授業後には登校しなかった生徒に電話をかけるなど、生徒とのコミュニケーションを図ろうとする熱意ある取組が行われている。また、校内巡回や教職員による清掃活動など、生徒の学習環境を整えようとする姿勢に敬意を表する。
- 訪問調査における生徒会役員の生徒との懇談では、「落ち着いて学習できる環境を整えてくれている」と評価が高く、教職員が努力していることをよく理解できた。生徒もよく職員室にくるなど、教職員への信頼度が高いことが感じられる。
- スクールカウンセラーへの生徒の相談件数が多い。専門的見地からのアドバイスは貴重である。現状では勤務日数が少なすぎるので、勤務日数を増加すべきである。
- バイク通学者に対する指導については、安全上、また近隣住民との関係からも、より一層徹底してほしい。

#### □進路指導の状況

- 第1学年から第4学年までを通した継続的なキャリアガイダンスの実践によって、進学や就職につながるよう図られている。また、外部の支援機関との連携も推進して、進路指導が行われている。社会状況が厳しい中で、学校教育目標の「勤労を尊び」が卒業時に実践できる状況の改善が難しいという課題の解消に努力している。
- 生徒の中に、定職をもった生徒がいなくなっているという現状や卒業後も安定した職業に就くことが難しい現状を踏まて、改めて人生と職業との関係について教職員間で議論を深めて進路指導に努めてほしい。

#### □保健指導及び環境美化の状況

- 生徒の入学当初から、課題を持っている生徒の心のケアや、学習意欲の喚起、暴力的行為の否定など、本気になって向き合わなければならない問題が多くある中で、教職員はよく頑張っている。できれば、スクールカウンセラーの常駐も早急に手当てする必要がある。
- 定時制高校における給食制度の果たしている役割は、健康面でも、学習意欲の面でも、生徒たちの交流が深まるという面でもきわめて大きい。給食費については1食300円というが、一部の生徒しか食べていないという現状である。希望制という給食制度を改善することが必要である。

## ◆大項目 2 学校経営の状況

### 小項目 1 管理運営等の状況

#### ◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講評

##### ■教育目標の設定・実施状況（平成23年度重点取組項目）

- 「戸塚高校定時制の将来構想を検討する委員会」によって、教育目標及び中期学校経営方針等について、生徒の実態に合わせた見直しが行われている。社会の変化と生徒の変化にあった教育目標等の検討が期待される。
- 「あなたは、この学校に入学してよかったですか」について、生徒の肯定的評価の割合は82%であり、「お子様を本校に入学させてよかったですか」について、保護者の肯定的評価の割合は85.4%である。多くの生徒、保護者が学校に対して十分に満足している。教育目標の具現化に向けて、学校全体で取り組んでいる成果の表れである。

##### □組織運営及び教職員研修の状況

- 教職員の人数が限られている中で、教職員が互いに啓発して、活気あふれる円滑な学校運営組織の確立を図っている。「教職員が相互に理解し、信頼関係をもって日常の教育活動にあたることができている」について、教職員の肯定的評価の割合は87%であり、教職員の相互理解と情報共有が図られている。
- 「教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、研究・研修体制がとられている」について、教職員の肯定的評価の割合が高いが、教職員にとって時間の余裕が少ないため、十分な研修時間がとれないという課題がある。また、教科指導の方法についてはまだ改善が必要である。

##### □学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

- 学校経理については、管理職の学校経営方針や重点目標を踏まえた上での予算委員会の業務であるということへの認識を持って教職員が取り組んでいく必要がある。
- 施設・設備については、総体的には充実しているといえるが、車椅子が必要な生徒が利用する校庭や体育館に通じる通路としてのスロープ等が整備されていない現状がある。早急に対処すべきことなので改善が求められる。また、防犯カメラの精度が低いという課題がある。
- 個人情報の管理に注意を払っており、学校情報の提供との兼ね合いにも対応していることは評価できる。

### 小項目 2 保護者・地域等との連携協力の状況

#### ◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講評

##### □保護者・地域等との連携協力の状況

- P T A組織を通して保護者との連携協力関係を確立しようとしている。保護

者との連絡を密にするために携帯電話から学校情報を閲覧できる「モバイル版戸定ホームページ」を開設して情報提供を行っている。

- 教職員のみならず生徒も地域清掃に心がけ、地域の理解を得られるよう努力している。今後も生徒による地域貢献を推進していく必要がある。
- 学校と地域の連携協力を推進していくために、『「まち」とともに歩む学校づくり懇話会（まち懇）』等の取組が行われ、地域との意見交換や信頼関係の構築を推進している。今後の成果が期待される。

#### ■危機管理の状況（平成23年度重点取組項目）

- 危機管理は、防災・防犯だけではなく、あらゆる事態に迅速に対応するものとしてあるので、幅広く把握して解決して欲しい。
- 防災訓練を実施するなどの取組が行われている。防犯対策の取組について十分な理解が得られていないという課題があるので、改善が望まれる。

#### □学校に関する情報公開の状況

- 文部科学省の研究校やNHK等のマスコミの取材に対しても、積極的に応じて学校を理解してもらう手だてを行っている。また、情報伝達や情報公開への様々な取組の努力がなされており、このことについての保護者の肯定的評価の割合は高い。今後もより一層の情報公開に努めてほしい。

### ◆学校の総合評価

#### ◇総合評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講評

- 全教職員がすべての生徒を知ることが目的として、クラス替えを毎年実施している。このことについては、生徒にとっても多くの生徒と知り合いになれると好評のようである。
- 中学時代に不登校や学力不振、家庭環境の問題、いじめや暴力的な行動等、様々な課題を抱えて入学してきた生徒に直接的に心から対処している教職員集団の姿は、素晴らしく評価に値する。学びたいものが学べる環境は、学校だけでは保証できないので、社会や地域そして何よりも教育委員会の支援が必要である。積極的に学校を支援してあげてほしい。高校生としての学力を習得させるべき授業の改善にもぜひ取り組んで、生徒一人ひとりのキャリア形成につながることを期待する。
- 登校して来る生徒を、教職員が校門で迎えて声をかけている。教職員の懸命な教育指導が保護者から支持されて、近年入学者は増加している。しかしながら、4年生になるまでに、入学した生徒の半分が学業途中で退学していくという現状もある。今後の取組に期待する。
- 生徒の「生きる力」の育成を目標にして、「じっくり、ゆっくり面倒見のよい学校」を目指すという現行の教育方針は共感できるし、その努力が実ってきていることを高く評価したい。また、学校に閉じこもらないで、他の支援団体や地域との連携を進めて、開かれたなかでの教育を推進しようとしていることが注目され、その成果が期待される。

### (3) 横浜商業高等学校別科(訪問調査日:平成23年7月7日)

訪問担当者:小松郁夫 委員長、高瀬 茂 委員、長島 由佳 委員

#### 横浜商業高等学校別科の概要

創 立:昭和23年4月

住 所:横浜市磯子区丸山1-22-21

学 校 長:山本 一夫

課 程 等:別科 理容科・美容科

クラス数:4クラス

生 徒 数:149人(男子53人、女子96人)平成23年5月1日現在

## ◆大項目1 教育活動の状況

### 小項目1 各教科等の状況

#### ◇評 価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講 評

##### ■教育課程の状況(平成23年度重点取組項目)

- 国家試験合格という大きな目標のもと、専門的知識や技術を習得させるための充実した教育課程が編成されている。卒業に必要な履修授業時間数2010時間を全生徒が満たすことができるように、それを大幅に上回る授業時間数2180時間を設定している。平成21年度及び平成22年度と全生徒を卒業させることができたのは大きな成果である。
- 総合的な学習の時間については内容が定まっていらないようだが、BB祭という文化祭との関連で進めて行くことも検討の余地がある。

##### □教科指導の状況

- 国家試験に合格できるよう放課後、長期休業中等に個別指導を行うなど、学校として組織的にきめの細かい指導が展開されていることは評価できる。実習に比べて座学の科目への取組に生徒の関心が少し低い面が見られるようだが、発問の工夫や表現力・発表力を育成する授業の工夫をし、生徒の興味・関心を高めてもらいたい。将来的に理容師・美容師を目指している生徒たちであるのでコミュニケーション能力の育成も大切なことである。
- 生き生きとした生徒の姿が、教職員の指導力の高さを物語っている。また、マナー化せず、時代に合わせながらも、教職員は基礎・基本をしっかりと伝えようとしている。美術の授業では、必要不可欠な美的センスを平面の上に描きだしていたが、束縛することなく、自由な発想を大切にしていた。

##### □特別活動・部活動の状況

- 部活動は無いが文化祭、スポーツ大会等の学校行事に生徒会が主体的に取り組んでいる様子が見られる。また、国家試験や理容・美容の大会に向けて、早朝練習、放課後練習、長期休業中の練習など意欲的に取り組む姿勢がうかがわれた。

- 生徒会の生徒との懇談で、生徒一人ひとりが、それぞれの目標をきちんと掲げ、限られた時間を有効に使っていると感じた。生徒が自主的に行動できるように、教職員が適切に指導していることや先輩としてアドバイザーとなっている様子はよく見てとれた。

## 小項目2 生徒の状況

### ◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

### ◇講評

#### ■生徒指導・教育相談の状況（平成23年度重点取組項目）

- 理容科・美容科でそれぞれ各学年1クラス40人という生徒数もあるが、養護教諭が中心となって全教職員が生徒に関する情報の共有化をよく図っている。そのため、生徒同士のトラブルや学校内の問題が、平成21年度に比べて平成22年度には大幅に改善してきているのはその成果と言える。
- 自分を磨きあげていく別科のような学習現場において、教職員は実習等における生徒とのコミュニケーションの中で、生徒の生活態度の変化や様々な悩みなどに気付き対応していくことが大切である。将来、人と接する職業に就くのであるからこそ、教職員の対応自体が彼らにとっての学びとなることを期待する。
- 生徒への指導が組織的になされている。教職員が同じ目標で学んできた先輩であるところが強みなのであろう。経験を生かした様々な指導水準は高い。それに生徒も素直に応えている。
- 何より大切なコミュニケーション能力の育成に努めている。明るい生徒が多く、取組もまじめであった。何人かの生徒と会話することができたが、しっかりと受け答えができていた。

#### □進路指導の状況

- 進路指導主任のいない中ではあるが、国家試験の全員合格、全員就職という目標達成に向けて教職員は尽力している。進路ガイダンスや進路説明会等の進路指導が充実してきたようで、生徒の満足度も高くなってきていることは評価できる。
- 社会状況が厳しい中、仕事の厳しさを伝えながらの指導は困難なところが多いことは察する。仕事に就くことの喜びや楽しみをより一層伝え、更なる指導に力を注いでほしい。

#### □保健指導及び環境美化の状況

- 生徒の健康管理については、学級担任と養護教諭が連携して、生徒一人ひとりの健康状態や生活状況をよく把握しているが、アルバイトをしている生徒など生活面で不規則になりがちな生徒もいるようなので、生徒の健康に対する意識の高揚を、今後より一層図っていくことが大切である。
- 学校に食堂が無く、昼食をとらない生徒がいると聞いた。食習慣を大切にすることが自分自身を作り、それが技術の向上につながることや、生活習慣を大切にすることが、自分の将来を作ることに繋がることを継続的に指導していくことが大切である。

## ◆大項目2 学校経営の状況

### 小項目1 管理運営等の状況

#### ◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講評

##### ■教育目標の設定・実施状況（平成23年度重点取組項目）

- 教育目標は、理容師や美容師の養成に向けた内容であり明確である。また、その国家試験の合格に向けた対応をするということで取組も明確であり、生徒や保護者も理解している。ただ、知識より技術だと思っている生徒がいて、学科がおろそかになっているような懸念がある。
- 学校として、生徒が明確な理容師像、美容師像が持てるように指導するとともに、社会人としての資質を養うように努めているが、社会人、職業人としての規範意識やモラル等も育てていくことが必要である。生徒が将来、理容業や美容業という社会に生きていくために、より一層力を入れて取り組むことが望まれる。

##### □組織運営及び教職員研修の状況

- 専任の教職員が少ない学校であり、一人が何役もこなさなければいけない状況は大変なことである。また、理容・美容の教職員の異動がなく人事が固定化してしまうことはやむを得ないことであろうが、校内組織の検討や仕事の効率化を図る取組をより一層進めるとともに、長期的な展望に立って学校経営を考えていくことが必要である。
- これからの社会に適応する生徒を輩出するためには、教職員の外向きの姿勢がより大切になってくる。外部講師による講習会や勉強会など外からの風を吹き込むことや、社会貢献・地域貢献できる企業や団体と連携し、大いに参画してもらいような取組が必要である。

##### □学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

- 個人情報管理という面で生徒用アンケートの結果、学校関係者評価でも指摘があるように生徒の意識が低いようである。将来、理容師・美容師を目指す生徒たちにとって、客から知り得た情報の管理は、最も大切なことである。生徒の個人情報に関する意識の高揚を、学校として図っていくことが必要である。

## 小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況

#### ◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講評

##### ■保護者・地域等との連携協力の状況（平成23年度重点取組項目）

- 地域とともに歩む学校づくりを認識している取組として、敬老祝賀会は大きな役割を果たしている。生徒にも老人会にとってもとても好評なようなので、これを機会としてさらに地域とともに歩む学校としての取組を進めてほしい。
- 保護者は同業者が多いこともあり、積極的な協力がある。生徒が行う地域施

設でのボランティア活動は良いが、地域の中の学校としての理解や近隣校との交流については、さらに進めていくことを期待している。訪問調査の際に、生徒による地域清掃の様子を拝見したが、積極的な行動ではなく、決められたことだから参加しているようであった。今のままで満足せず、地域連携や社会貢献に積極的に取り組んでほしい

#### □危機管理の状況

- 災害対策に関しては、生徒や保護者が安心できるような体制づくりを構築していく必要がある。

#### □学校に関する情報公開の状況

- ホームページの充実に向けた校内研修会を実施するなどホームページ上の情報を充実することによって、学校に関する情報の公開に努めている。このことについての保護者の肯定的評価の割合は高い。より一層の充実に努めてほしい。

### ◆学校の総合評価

#### ◇総合評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

#### ◇講 評

- 実習に臨んでいる生徒の様子は楽しそうでまた真剣な姿が見られた。生徒会の生徒との懇談で感じたことだが、目標がしっかりしていて取り組むべきことを明確に持っている生徒が多く、みんな生き生きとしているように感じた。教職員も生徒の思いをしっかりとらえ、一人ひとりの希望の実現に努力している姿勢がうかがえた。全国で唯一の公立の理容・美容の高等学校別科としての特色を今後とも生かして、多くの優秀な人材を輩出してほしい。
- 学校としての様々な努力や取組は理解できたが、市立学校としての役割や地域にある学校としての役割を意識した取組の特色が希薄な感じがする。社会参画できる生徒の育成のためにも、このような取組に力を入れるべく教職員の意識向上を図ってほしい。
- 生徒の8割以上はすでに高校を卒業している。卒業後の進路が明確なだけに、教室で学習に励む姿には真剣さが感じられた。実技に比べて座学の科目は苦手な生徒もいるらしい。それでも将来の職業に結びつくとあって誰もが一生懸命に学んでいる。実技を教える講師陣には卒業生も多い。優れた先輩から理容・美容の技を教えられる意義は、生徒の実習中の集中力を見れば納得がいく。
- 学校の教育課程や教科指導、施設・設備の状況などはとても良い。2年間過ごし、国家試験の合格を目指して入学した生徒が、資格のためだけではなく、社会で生きていくために必要な規範意識やモラルは、日ごろの大人のあり方が大きな影響を与えるものである。教職員が同じ目的を持ち学んできた良き先輩として、プライド高き指導者として、生徒を指導している良い学校といえる。今後、学校のあり方として、市民に広く愛されるためにも、対外的な学びと企画・運営を加味してほしい。

## 2 書類調査校

### (1) 南高等学校(書類調査日:平成23年5月30日)

#### ◇講 評

#### ◆大項目 1 教育活動の状況

##### 小項目 1 各教科等の状況

##### ■教育課程の状況(平成23年度重点取組項目)

- 生徒にとっては、単位制であることで自分の必要な科目や興味・関心を満たす科目が設置されていて選択できることは評価できる。平成25年度からの新教育課程の学年(年次)進行での実施に向けて、授業時間数を2時間増やすことについても評価できるが、学校教育目標の実現、学校の特色づくりと進路指導の充実という面との結びつきを踏まえていく必要がある。今後、附属中学校の設置を踏まえて、6年間を見通した教育課程の編成が大切である。

##### □教科指導の状況

- 習熟度指導を取り入れるなど授業力向上に努めている。観点別評価規準については、今後も引き続き各教科で研究するとともに、学校全体として研究授業にも取り組んでいくことで、教職員の授業力向上に結びついていくことを期待する。

##### 小項目 2 生徒の状況

##### □生徒指導・教育相談の状況

- 生徒と教職員のコミュニケーションや教育相談への対応については、組織の肥大化に伴う課題を解消するために、校内組織の整備を進め、生徒にかかわる時間を増やす努力をしている。今後も、生徒にとって安心して通え、落ち着いて生活できる学校づくりに努力してほしい。

#### ◆大項目 2 学校経営の状況

##### 小項目 1 学校の管理運営等の状況

##### ■組織運営及び教職員研修の状況(平成23年度重点取組項目)

- 新たに設置した「学校経営会議」が、学校の抱える教育活動及び経営上の諸課題について把握整理して、効率的に解決していくための役割を果たしている。さらに、全校組織の中核としての機能を果たすよう運営していくことが望まれる。

##### 小項目 2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

##### □保護者・地域等との連携協力の状況

- 学校設定教科として「教育」を設置し、学校設定科目として「教育基礎Ⅰ」と「教育基礎Ⅱ」を設置して、近隣小学校の学校体験の受入や中学校との部活動の協力等、小・中学校と協力しあうことは、教員をめざす生徒ばかりでなく学校にとっても重要な異校種連携である。今後も努力して継続していくことを望む。

##### ■危機管理の状況(平成23年度重点取組項目)

- 平成22年度は、危機管理に関する取組を重点項目として取り組んで成果を上げてきている面がある。防犯対策や災害対策に関しては、平成23年度も重点項目としており、生徒や保護者がより一層安心できるような体制づくりを構築していくが大切である。

## (2) 横浜商業高等学校(書類調査日:平成23年5月30日)

### ◇講評

#### ◆大項目1 教育活動の状況

##### 小項目1 各教科等の状況

###### □教育課程の状況

- 新教育課程の編成に向けては、商業科、国際学科のそれぞれの生徒の進路希望の実現や学力の伸長が図れるよう教育内容等の検討を進めることが大切である。また、平成22年度に設置した「Y校ビジネスチャレンジ(YBC)」クラスの成果を期待する。

###### □教科指導の状況

- 教科指導に対する教職員の肯定的評価の割合は高いが、生徒の肯定的評価の割合はあまり高くない。その要因を明確にし、より一層きめ細やかな学習指導を進めるとともに、授業内容の工夫・改善が必要である。

###### ■特別活動・部活動の状況(平成23年度重点取組項目)

- 学校行事や部活動に対する生徒や保護者の満足度は高い。今後も生徒の主体的な活動の促進に向けた積極的な支援の取組が望まれる。

##### 小項目2 生徒の状況

###### □生徒指導・教育相談の状況

- 生徒は落ち着いた状況で学校生活を送っているようである。生徒評価におけるいじめや差別のない環境づくり、生徒同士の人間関係などの面で、平成21年度と比較すると高い評価になっている。担任を中心とした生徒理解の促進、あいさつ指導、積極的な声かけ、朝読書などの地道な取組が成果を出してきている。平成21年度の課題であった安心できる環境づくりの取組を推進した結果であるにとらえることができる。

###### ■進路指導の状況(平成23年度重点取組項目)

- 進路指導の充実に対する生徒の肯定的評価の割合があまり高くない。3年間を見通した学校全体としての進路指導体制を整えていく必要がある。

#### ◆大項目2 学校経営の状況

##### 小項目1 学校の管理運営等の状況

###### □組織運営及び教職員研修の状況

- 校務分掌や各種委員会等で、学校教育目標に基づいて、年間計画と重要取組目標を決め、役割分担を行って業務を行っているが、「情報が共有され、チーム力を発揮できる組織体制となっている」について、教職員の肯定的評価の割合は低い。組織力を発揮できる体制づくりが課題である。

##### 小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

###### ■保護者・地域等との連携協力の状況(平成23年度重点取組項目)

- 地域とのかかわりは長い歴史を持つ学校である。また、市立高校で唯一「おやじの会」のある学校である。近隣の小学校の「おやじの会」との連携は、地域とつながりという意味で有意義なものなので大切にしてもらいたい。

###### □学校に関する情報公開の状況

- 学校に関する情報公開については、学校ホームページの内容更新など年間を通して積極的に行っている。今後も日常の教育活動の発信を含め、より一層積極的に情報公開に取り組んでいくことが必要である。

### (3) 横浜総合高等学校(書類調査日:平成23年5月30日)

#### ◇講評

#### ◆大項目1 教育活動の状況

##### 小項目1 各教科等の状況

##### ■教育課程の状況(平成23年度重点取組項目)

- 三部制の理念、単位制総合学科という特色、教育活動の展開が施設・設備等の問題やそれらから生じる制約などにより、うまく生かされていない現状がある。創立から10年を迎え、教育目標の実現に向けて、また平成25年度の旧県立大岡高校跡地への移転を機会に、教育理念、教育課程の編成等を基本的に見直す必要がある。

##### ■教科指導の状況(平成23年度重点取組項目)

- 生徒、保護者、地域の方々と教職員と一緒に自由に話し合う「三者懇談会」において、授業改善をテーマに意見交換を行い、各教科で検討して平成23年度の課題として整理している。成果を期待する。

##### 小項目2 生徒の状況

##### ■生徒指導・教育相談の状況(平成23年度重点取組項目)

- 三部制であるということに加えて施設・設備の状況から、生徒が一同に会する場面設定が難しいことにより、部活動や学校行事の実施などに困難がある。また、生徒会活動などに前向きでない生徒、自治的活動の必要性をあまり感じていない生徒など多様な生徒がいる中で、学校運営等の改善に向けて話し合える場としての「三者懇談会」は大きな役割を果たしている。今後も生徒自らが考え参加できる場として、この会を大切にして学校運営等の改善に努めてもらいたい。

##### ■進路指導の状況(平成23年度重点取組項目)

- 進路指導・キャリア教育については、各年度担任団とガイダンス部及び進路指導部が協力して取り組んでいるようだが、進路指導や進路相談についての生徒と教職員の評価の違いは課題である。生徒に対するきめ細かな手だてが望まれる。

#### ◆大項目2 学校経営の状況

##### 小項目1 学校の管理運営等の状況

##### ■組織運営及び教職員研修の状況(平成23年度重点取組項目)

- 三者懇談会という取組が、学校運営等の改善に有効な成果を上げており、その実績は評価できる。移転計画が進められている中で、生徒、保護者、教職員が一体となって話し合いを重ね、組織的・継続的に学校運営等の改善に努めていくことを期待する。

##### ■学校経理、施設・設備及び情報の管理状況(平成23年度重点取組項目)

- 移転改築後の施設・設備の有効活用について、学校全体として検討していく必要がある。

##### 小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

##### ■保護者・地域等との連携協力の状況(平成23年度重点取組項目)

- 学校と保護者・地域との連携協力の重要性を認識しており、学校に対する理解と協力を得るために意欲的に取り組んでいる。今後は、移転後を見通した連携協力関係についても取り組んでいく必要がある。

#### (4) みなと総合高等学校(書類調査日:平成23年5月30日)

##### ◇講 評

##### ◆大項目1 教育活動の状況

##### 小項目1 各教科等の状況

##### ■教育課程の状況(平成23年度重点取組項目)

- 生徒の主体的な科目選択を実現するために、可能な限り多様な選択科目を設置する努力が行われており、生徒の肯定的評価の割合も高い。今後も学校教育目標を踏まえて、生徒の多様な進路希望や興味・関心に対応した選択科目の設置に努めてほしい。

##### □教科指導の状況

- 4年制大学への進学希望が増えているという現状がある。各教科においては、授業内容や授業方法の改善に努めるなど、生徒の進路希望の実現に向けた対応が望まれる。

##### 小項目2 生徒の状況

##### □生徒指導・教育相談の状況

- 生徒情報交換会を定期的に開催して生徒理解に努めるとともに、情報の共有化を図って生徒支援に努めていることは評価できる。生徒が抱える課題の早期発見、早期解決に努めてほしい。

##### ■進路指導の状況(平成23年度重点取組項目)

- 生徒の進路希望の実現に向けて、関係部署の連携を図るとともに、教職員の進路指導に対する意識を高めるなど、教職員間の連携を軸にした進路指導の取組が徐々に成果を出してきている。進路説明会や進路ガイダンス、進路相談などについては、生徒や保護者からの肯定的評価の割合は高い。今後も、3年間を見通して、生徒一人ひとりの進路希望に応じた適切な指導ができるよう取り組んでほしい。

##### ◆大項目2 学校経営の状況

##### 小項目1 学校の管理運営等の状況

##### ■教育目標の設定・実施状況(平成23年度重点取組項目)

- 生徒の生きていく力である「人間力を高める」という学校教育目標を掲げている。教職員は、生徒や保護者にとって満足度の高い学校運営を行うよう取り組んでおり、「学校生活は充実していますか」についての生徒の肯定的評価の割合が平成21年度と比較して高まっており、教職員の取組の成果といえる。

##### □組織運営及び教職員研修の状況

- 平成21年度に校内組織を改編して2年目となるが、その改編がまだ十分に効率的、合理的な学校運営に結びついていない面がある。課題を解消して、全教職員が意欲的に業務に取り組むことができるようにしていくことが必要である。

##### 小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

##### ■保護者・地域等との連携協力の状況(平成23年度重点取組項目)

- 保護者との連携協力を推進していくために、保護者が学校に来る機会を増やすことや学校ウェブページやプリント等でのより一層の広報活動に取り組んで、学校の教育活動に対する理解と協力を求めていくことが必要である。また、地域との連携協力も積極的に推進することも大切である。

## (5) 桜丘高等学校(書類調査日:平成23年5月30日)

### ◇講 評

#### ◆大項目 1 教育活動の状況

##### 小項目 1 各教科等の状況

###### ■教育課程の状況(平成23年度重点取組項目)

- 学校教育目標や教育方針を踏まえて、教育課程の改善を図っている。このことについて、生徒や保護者に丁寧に説明し理解を図っていく必要がある。また、生徒の特性、進路に応じた新教育課程の編成を行っていくことが大切である。

###### □教科指導の状況

- 学力向上のための研究指定校として、高い学力の育成を目指した様々な取組がなされている。それらの取組を実りあるものにしていくためには、教職員研修等での共通理解を深めることや生徒・保護者の理解を深めることが必要である。また、これらの取組が生徒にどのぐらいの効果があるかを検証していく必要がある。

##### 小項目 2 生徒の状況

###### ■進路指導の状況(平成23年度重点取組項目)

- 進路指導に関連して、家庭学習習慣の対策としての取組がなされているが、「家庭学習の習慣が身に付いている」について、生徒の肯定的評価の割合は低い。生徒の学習が受動的になっていないかという点が危惧される。生徒一人ひとりに応じた進路指導を行っていくためには、教職員の進路指導に関する共通理解を深めて取り組んでいくことが必要である。

#### ◆大項目 2 学校経営の状況

##### 小項目 1 学校の管理運営等の状況

###### □教育目標等の設定・実施状況

- 学校教育目標の具現化に向けて、新たな使命及び中期学校経営方針に基づいた教育活動の周知徹底を図るとともに、学校全体として取り組んでいくことが求められる。

###### ■学校経理、施設・設備及び情報の管理状況(平成23年度重点取組項目)

- 学校経理の状況や施設・設備の整備状況をホームページで公開するなど積極的な周知に努めており、保護者による肯定的評価の割合が高まっていることは評価できる。

##### 小項目 2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

###### □保護者・地域等との連携協力の状況

- 地域との連携協力に関しては、平成22年度から実施することとなった社会貢献を目的とした体験活動に積極的に取り組んで、地域に根ざした学校づくりに努めている。今後、地域との連携協力を推進していくためには、この取組をどのようにして定着させていくかが大切である。

###### ■学校に関する情報公開の状況(平成23年度重点取組項目)

- ホームページ委員会を中心に、ホームページを充実させ、学校に関する情報を積極的に発信するとともに、プリント配布も併用して、生徒を通して必要な情報が家庭に伝わるように配慮していることは評価できる。保護者や地域の理解をより一層深めていくためには、ホームページの充実は今後も大切である。

## (6) 鶴見工業高等学校(書類調査日:平成23年5月30日)

### ◇講 評

#### ◆大項目 1 教育活動の状況

##### 小項目 1 各教科等の状況

###### □教育課程の状況

- 教育課程の編成・実施に関する教職員の肯定的評価の割合が高い。教職員の理解が深まり一体的な取組がなされたことや社会貢献を目的とした体験活動の実施が肯定的にとらえられた成果である。

###### □教科指導の状況

- 教職員のわかる授業を目指した授業改善の取組とともに、教職員と第3学年の生徒との信頼関係が深まっており、生徒の前向きに学ぶ姿勢を引き出すことができたことは評価できる。

###### □特別活動・部活動の状況

- 第3学年しかいない状況の中で、生徒と教職員が一体となって、スポーツ大会や鶴工祭(文化祭)等の企画・運営に取り組み、生徒にとって充実感のある学校行事となったことは、学校行事に対する生徒の肯定的評価の割合の高まりから推察することができる。

##### 小項目 2 生徒の状況

###### □進路指導の状況

- 進路ガイダンスを通して、生徒及び保護者に対して適切な進路選択ができるよう情報提供に努めたことなどにより、社会情勢の変化により求人数が減少する中、学校を経由した就職内定率が最終的に100%となったことは大きな成果である。

#### ◆大項目 2 学校経営の状況

##### 小項目 1 学校の管理運営等の状況

###### □教育目標等の設定・実施状況

- 「鶴工生としての誇りを持ち、一体感をもった行事や部活動を通し充実した学校生活を送る」という重点目標が、生徒会を中心に生徒が創意・工夫し行事を企画・運営したことに加えて、教職員、保護者、地域の方々の協力により実現できたことは評価できる。

###### □組織運営及び教職員研修の状況

- 科を越えて一体感を持った学校運営ができたことは、3学年だけとなったという外的要因による面もあるが、大いに評価できる。閉校にあたり、これまでの鶴見工業高校の教育活動に対して、尽力してきた関係者に、敬意を表する。

###### □学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

- 平成20年1月以来、「あとわずかだから」という理由でプールの修繕がなされなかったのは残念である。

##### 小項目 2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

###### □保護者・地域等との連携協力の状況

- 保護者・地域との良好で円滑な連携協力は、学校の活性化のために長年にわたり様々な場面において保護者や地域の方々との関係づくりに尽力したこと、それに対して保護者や地域が学校の考えを理解し、生徒の支援のために積極的に協力してくれた成果である。

## (7) 戸塚高等学校(書類調査日:平成23年5月30日)

### ◇講評

#### ◆大項目1 教育活動の状況

##### 小項目1 各教科等の状況

###### □教育課程の状況

- 生徒の実態、進路希望に対応できるように大幅な選択制を採用した教育課程となっており、生徒の肯定的評価の割合は高いが、2年次では他の年次に比べて低くなっている。この要因の分析やそれに応じた対応が必要である。

###### ■教科指導の状況

- 単位制による教育課程の特徴を生かした少人数での習熟度別授業、選択授業が成果を上げている。評価規準・評価方法についても生徒・保護者に分かりやすい説明を行っている。今後も、生徒のより一層の理解や保護者への周知について、さらなる取組を期待する。

###### □特別活動・部活動の状況

- 学校行事や生徒会活動への生徒の主体的な参加を重視した取組を行ってきているが、学校行事などの意義や実施方法について、生徒により一層理解してもらう努力が必要である。

##### 小項目2 生徒の状況

###### ■生徒指導・教育相談の状況

- 危機管理意識や防犯意識等を高める生徒指導については、様々な機会を利用して行われている。今後も生徒の危機管理意識や防犯意識等を高めていく効果的、継続的な指導を行っていくためには、全教職員が協力して取り組むことが大切である。

#### ◆大項目2 学校経営の状況

##### 小項目1 学校の管理運営等の状況

###### □教育目標の設定・実施状況

- 教育目標の具現化に向け、生徒の興味・関心や意欲的な取組に配慮した活動が行われており、教職員や保護者の肯定的評価の割合は高く、評価できる。

###### ■組織運営及び教職員研修の状況

- 教職員組織の運営や改善については、情報プロジェクトやパイオニアスクールヨコハマ(PSY)プロジェクトを分掌業務に組み込むことも含め、円滑に行われているが、業務量の増加に対応したより効率的な組織とその運営に向けた一層の工夫が望まれる。
- 教職員研修については、教職員学習会を定期的実施するなど前向きに取り組んでいる。将来構想にかかわる学習会も「戸塚高校の将来を研究・検討する委員会」を中心に進める計画が立てられている。今後の成果に期待する。

##### 小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

###### ■保護者・地域等との連携協力の状況

- 学校として積極的な社会貢献活動に取り組んできているのに、保護者に伝わっていないのは残念である。

###### □危機管理の状況

- 東日本大震災時の経験を踏まえ、安全管理についての確認や見直しに着手しており評価できる。

## (8) 東高等学校(書類調査日:平成23年5月30日)

### ◇講評

#### ◆大項目1 教育活動の状況

##### 小項目1 各教科等の状況

###### ■教科指導の状況(平成23年度重点取組項目)

- 授業力の向上に向けた取組がなされている。この成果は、生徒の授業評価における肯定的評価の割合の高さに反映している。今後は、生徒の学習への動機付けや家庭学習の促進、家庭学習と授業との関連付けの取組などを期待する。

###### □特別活動・部活動の状況

- 特別活動・部活動に対する生徒・保護者の満足度の高さが、学校の特色のひとつになっている。

##### 小項目2 生徒の状況

###### □生徒指導・教育相談の状況

- 良好な人間関係と安心、安全の場としての学校を目指した取組の成果が出てきており、教職員、生徒の評価にも反映している。しかし、保護者からはわからないとの回答が目立つ。保護者へのより一層の周知が必要である。

###### ■進路指導の状況(平成23年度重点取組項目)

- 年度当初の各授業担当者による学習オリエンテーションや進路ガイダンスなどの方法で進路指導、学習指導を行っている。成果は見られるが十分ではなく、とりわけ家庭学習の重要性の認識や習慣化については、一層の努力が期待される。

#### ◆大項目2 学校経営の状況

##### 小項目1 学校の管理運営等の状況

###### □教育目標の設定・実施状況

- 生徒の生き方に直接関わっている学校教育目標はとても分かりやすい。教育目標や教育方針にかかわる教職員、生徒、保護者の肯定的評価の割合のことがよく理解できる。

###### ■組織運営及び教職員研修の状況(平成23年度重点取組項目)

- 校務運営組織検討委員会を設置し、効率的な校務運営組織の検討に取り組んでいるが、学校業務の多様化、教職員構成の変化等から教職員の高い評価につながるまでには至っていない。引き続き改善に向けた努力が期待される。

###### □学校経営、施設・設備及び情報の管理状況

- 限られた予算の効果的な配分については、短期、中長期的な観点から検討する必要性が認識されており、今後を期待する。

##### 小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況

###### □保護者・地域等との連携協力の状況

- 地域との連携では、学校の地域貢献活動があまり知られていない状況を踏まえ、ホームページに地域貢献活動のコーナーを設置するなど広報活動にも努めており、評価できる。

###### ■危機管理の状況(平成23年度重点取組項目)

- 危機管理に関する取組に関しては、教職員、生徒の肯定的評価の割合も高くなっている。一方保護者への周知についてはまだ十分ではなく、学校の状況が保護者によりよく伝わる方策が待たれる。

## (9) 横浜サイエンスフロンティア高等学校(書類調査日:平成23年5月30日)

### ◇講評

#### ◆大項目1 教育活動の状況

##### 小項目1 各教科等の状況

###### □教育課程の状況

- 生徒の進路希望の実現に向け、学ぶ楽しさを知り、科学への探究心を高め、コミュニケーション能力を育成する教育課程を編成している。また、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)研究課題開発校としての取組も行っている。自らにとって必要な科目や興味・関心を満たす科目が設置されていることについての生徒の肯定的評価の割合は高い。新教育課程の編成に向けては、バランスのとれた学力伸長を目指してほしい。

###### ■教科指導の状況(平成23年度重点取組項目)

- 少人数によるきめ細かな指導、コミュニケーション能力育成の指導に努めており、今後の取組の成果が期待される。しかし、自主的な学習習慣をつけさせるよう指導しているが、「家庭学習の習慣が身に付いている」について、生徒の肯定的評価の割合は50%を下回っていることは課題である。

##### 小項目2 生徒の状況

###### □生徒指導・教育相談の状況

- 生徒の現状を踏まえた決まりの見直しと指導体制の確立に向けた取組が行われている。集団全体としてのコンプライアンス、生徒指導における共通認識、個々の生徒に応じた生徒指導が課題として認識されており、今後の取組の成果が期待される。

###### ■進路指導の状況(平成23年度重点取組項目)

- 進路学習会、保護者会、外部講師による講演会等を通して、科目選択指導と関連させた進路指導を行っている。3年間を見通した取組が望まれる。

#### ◆大項目2 学校経営の状況

##### 小項目1 学校の管理運営等の状況

###### ■教育目標の設定・実施状況(平成23年度重点取組項目)

- 教育理念、教育目標、教育方針についての共通理解の促進に努めている。スーパーサイエンスハイスクール(SSH)研究課題開発校としての方向に対応するために、校務分掌にサイエンス事務局を位置付け、全教職員がサイエンス教育推進委員として活動していることは評価できる。

###### □組織運営及び教職員研修の状況

- 校務分掌の業務を整理し、効率化に向けた取組がなされている。大職員室も組織運営の円滑化に貢献している。取組の成果に期待する。

##### 小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況

###### ■保護者・地域等との連携協力の状況(平成23年度重点取組項目)

- PTA活動を中心とする保護者との関係は良好であるが、地域との連携は十分とはいえない段階である。学校の特色を生かして取り組んでいるサイエンスにかかわる活動等を一層促進させてほしい。

###### □学校に関する情報公開の状況

- ホームページやメールマガジンの一層の充実に加え、保護者との日常的な情報交換の必要性が認識されており、今後の成果が期待される。

(参考) 平成23年度 横浜市立高等学校 重点取組項目一覧

評価項目	学校名	金沢	桜丘	戸塚	東	南	Y S F H	横浜商業	みなと総合	横浜総合	戸塚定時	横浜別科
大項目1 教育活動の状況												
小項目1 各教科等の状況												
□教育課程の状況		■	■			■			■	■	■	■
□教科指導の状況				■	■		■			■		
□特別活動・部活動の状況								■				
小項目2 生徒の状況												
□生徒指導・教育相談の状況				■						■	■	■
□進路指導の状況		■	■		■		■	■	■	■		
□保健指導及び環境美化の状況												
大項目2 学校経営の状況												
小項目1 管理運営等の状況												
□教育目標等の設定・実施状況		■					■		■		■	■
□組織運営及び教職員研修の状況				■	■	■				■		
□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況			■							■		
小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況												
□保護者・地域等との連携協力の状況				■			■	■	■	■		■
□危機管理の状況		■			■	■					■	
□学校に関する情報公開の状況			■									